

## 第45回 市民まちづくり連続講座 in 明石

# 丸谷聡子明石市政 この1年間の足取りを検証

昨年春の怒涛のような明石市トリプル選挙を経て、丸谷聡子市長が就任してまる1年が経った。3期12年続いた泉房穂市政の後継指名を受けて登場し、子育て施策などの主要施策は継承しながら、自治基本条例を「遵守」して前市長の“トップダウン”型の市政運営から、市民参画を重視した“ボトムアップ”型の市政運営に変えていくと宣言して始まったこの1年だった。

新市長の評価を1年とするのはまだ早いという見方もあるが、任期4年の折り返し点は1年後に来る。「まだ1年」という前提で、この間に新市長らしいカラーは市政に反映されたのかどうか？ 2年目以降の課題は何なのか？ この1年間の明石市政の足取りを丹念に振り返り、多角的に検証してみたい。

市民自治あかしは7月28日(日)に総会を兼ねた「トークサロン・草の根の市民自治」を開催します。この中で政策提言市民団体として新市政の1年を振り返り総括します。6月の講座ではその一端を披露し、多くの方の意見を総括案に反映させていきたいと考えています。

多くの皆様のご参加をお願いします。

### 第45回市民まちづくり連続講座 in 明石

日時 2024年6月23日(日) 午後1時30分～4時30分

会場 ウィズあかし 市民活動支援センター・フリースペース(明石駅前アスパア明石8階)

テーマ 丸谷聡子明石市政 この1年間の検証

昨年5月就任した丸谷聡子市政の1年間の足取りを検証する

※資料代300円 ※事前申し込み不要。どなたでも参加できます。会場に直接お越しください。

## 後継指名から1ヵ月余「市民自治の市政」第2ステージへ期待を受けて

昨年春の明石市長選挙は、異例づくめの展開になった。3期12年市政を担った泉・前市長は市議への暴言問題から3期限りでの引退を前年10月に表明した後も“後継体制”づくりに意欲を燃やし、自派の新人市・県議擁立と選挙運動の先頭に立ち、3月に入っても後継候補を明らかにしなかった。続投への疑心暗鬼も出る中で、3月下旬になって丸谷氏の後継指名を発表した。

こうした経緯の中で、市議3期目をめざしていた丸谷氏は急遽市長候補に転進したことから、事前準備のない中で選挙で圧勝し、1ヵ月余で市長に就任した。

出馬表明4日後に開かれた市民自治あかし主催の「市民マニフェスト公開討論会」では、市議2期の実績と長い市民活動の経験や環境と環境教育への造詣の深さを活かした活動家の経験を背景

に、市民自治のまちづくりを掲げた自治基本条例を「遵守し、市民参画の市政を進める」と明言した。

また、就任直後には、市民からの意見を直接受ける市長への手紙「まるちゃんポスト」を12カ所に設置したほか、「対話の市政」を進めるためのタウンミーティング「まるちゃんカフェ」を5月末から毎月開始した。市政の重要課題である新庁舎建設計画についても、6月末に有識者会議を立ち上げて市民ワークショップや市民アンケートなど、切迫した計画策定日程の中で土壇場の意見反映策に踏み切った。

こうしたこともあって、市民自治あかしは新市政を「市民自治の市政」が第2ステージに入ったと位置付けて、市民が参画と協働していく課題を模索してきた。

回	日 時	テーマと内容	会 場
一	7月28日(日)	トークサロン・草の根の市民自治 (市民自治あかし総会)	ウイズあかし 8F 市民活動セツ
	8月講座は休み	9月以降の計画は後日お知らせします	

明石公園内の  
旧市立図書館

## 県立図書館と一体の建築文化資産

### 解体せず、改修して保存と活用を まちづくり講座の議論踏まえ提案書

明石市立図書館が明石駅前再開発ビル内に移転した2017年以降、一時的な暫定利用期間を経て宙に浮いていた明石公園内の旧図書館を、明石市が解体して新たな施設を建設する計画を進めています。市はどのような施設を市民が求めているかを広く市民から聴くワークショップが5月19日に初めて開催し、都市公園内に設置可能な施設の一覧表を提示して「旧図書館跡地」をみんなで考えようと呼びかけています。

これに対して「解体ありき」の活用に疑問を持つ市民が集まって4月20日に開かれた市民まちづくり講座の議論をまとめて、市民自治あかしが「文化資産である建物の耐震補強と改修による活用を検討すべきだ」という提案書をまとめ、5月15日丸谷市長と担当の政策局に提出しました。提案には具体的な活用法も盛り込まれており、19日のワークショップに参加して保存活用を呼びかけます。

両図書館は「図書館の図書館」である県立と、市民に直接図書サービスを行う市立が一体として1974年10月に開館し、この秋で50年を迎えます。市立図書館が移転したところに県立は耐震補強と改修工事を行い向こう30年以上使っていく施設として再出発しました。しかし、市立は移転を決めた2013年以降も移転後の用途についての議論を行わないまま放置し、移転後は一時「ふるさと図書室」や「生涯学習センター分館」として利用したが、2020年3月以降は“空き家”のまま放置してきました。

この間、県からは「利用期限の2023年3月までに原状回復して土地を返還」することを求める督

促もあり、昨年5月就任した丸谷市長が昨年12月末に「解体と新規施設の建設スケジュール」を報告して新たな段階を迎えていました。

4月のまちづくり講座には、半世紀前に両図書館を基本設計した建築家も出席し「二つの建物は一体的に空間設計されており、市立図書館がなくなれば建築空間としてはいびつなものになる」と、県立図書館同様に耐震補強と内部の改修を施して有意義に活用していくことを提唱。「城址公園と緑の空間に包まれた貴重な文化資産」であることを強調しました。

また、県立図書館の耐震化工事は一般的に行われている荒っぽい“補強工事”ではなく、耐力壁や壁厚を増やすなどのほとんど目立たないスマートで丁寧な工事が行われ、新築時の空間づくりを大切に保たれていることも紹介し、市立図書館も県立のように補強改修して蔵書数や蔵書スペースが少ない県立図書館の弱点をカバーするために一部を県立の書庫に活用することなどを提案しています。本来の図書館機能を活かして充実を図ることが半世紀の遺産を生かす道だと提案しました。

#### 提案されている利用方法

(いずれも既存施設を有効活用可能)

- ・一部は県立図書館の増設書庫に
- ・市立図書館にない郷土資料室
- ・明石城下町資料館
- ・学生、生徒らの広い図書学習室
- ・会議室や講演会場
- ・これらのオープン空間は災害時の支援拠点として活用する
- ・泊まり込んで本を読める施設
- ・軽食等の飲食提供施設

### 3月市議会では「解体ありき」の再検討求める提案も

3月市議会では公明党の梅田宏希議員が本会議と常任委員会で、2022年4月の泉前市長と斎藤知事の会談で知事は「解体して更地で返せ」とこだわっているのではないと表明し、県の姿勢も変化していることを指摘し、解体ありきを再検討すべきだと迫っています。また、県立のように国の財政支援措置を利用すれば建て替えよりもはるかに安い財政措置ですむ。貴重な建物を活かすことがSDGsにつながると財政的にも有効な方策であることを主張しています。 **提案書は市民自治あかしのHPにアップしています**